第1回　こんな公園あったらいいなコンクール

■実施体制
主催：毎日新聞社
共催：都市公園法施行60周年等記念事業実行会議
後援：国土交通省、全国都市公園整備促進協議会
協力：BICジャパン株式会社

■応募期間　平成28年5月4日～9月10日

■応募数　486点

■審査会　平成28年9月26日（月）

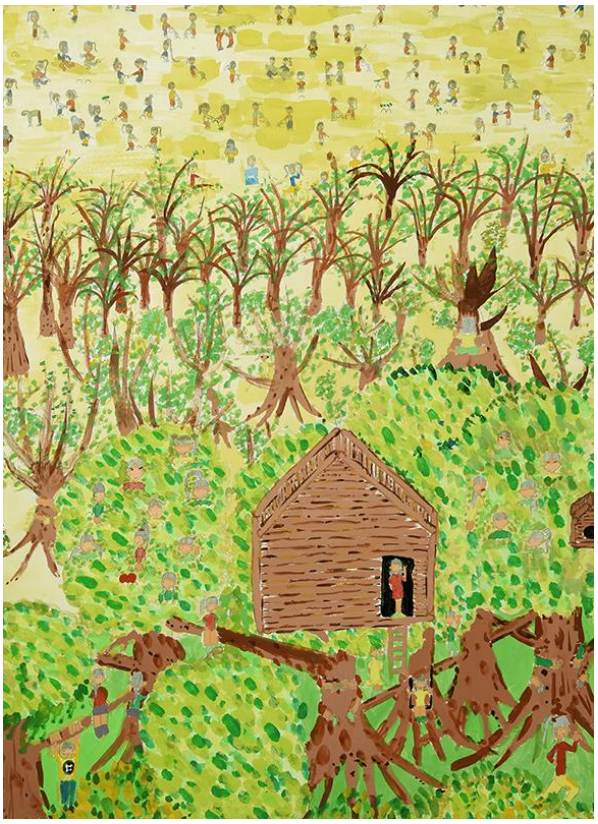
【賞】

国土交通大臣賞	1点	賞状
毎日新聞社賞	1点	賞状
都市公園法施行60周年賞	1点	賞状
審査員特別賞	1点	賞状
入選	7点	賞状

計11点

受賞作品

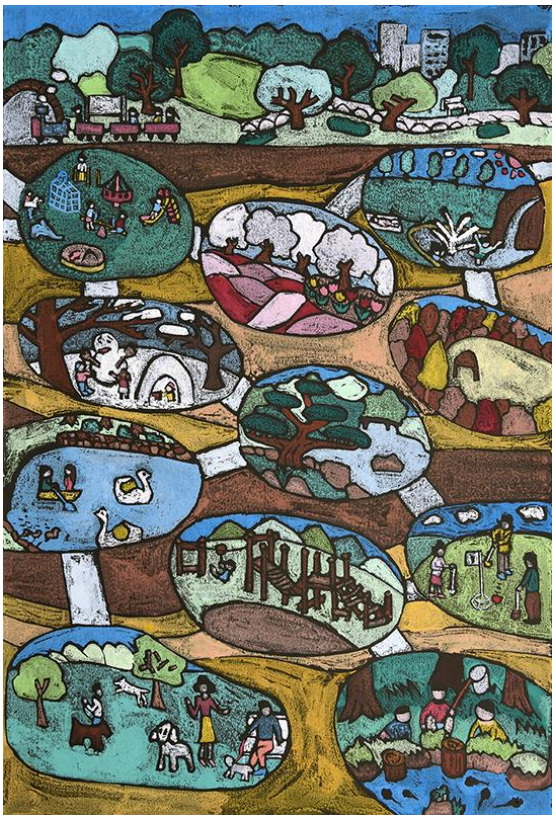
■国土交通大臣賞



「木を最後まで、
育てないと遊べないよ公園」
江東区立明治小5年　砂金 諒

　私の描いた公園は、自分で1から大切に育てて来た木と自由に遊べる公園です。その公園では、自分で、植えたなえを最後の最後まで大切に育てないと、その公園では遊べないというルールになっています。
　こんなふうに説明をかいていたら、その公園にいますぐ、とびだして、いきたいと思いました。

■毎日新聞社賞

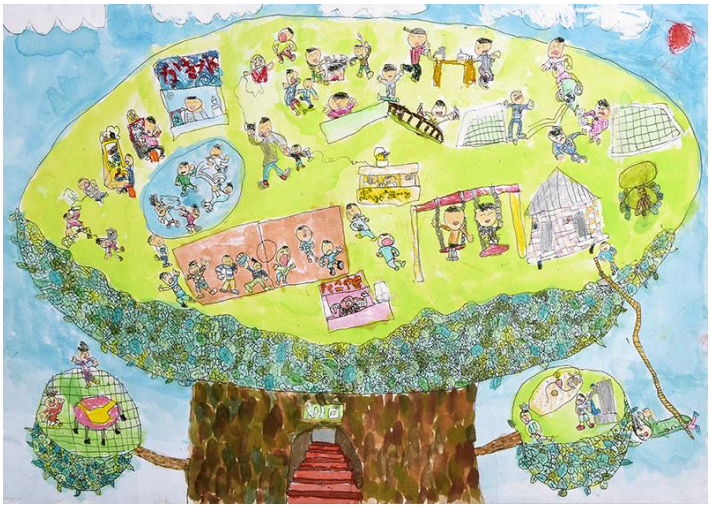


「選べる公園」
佐賀市立高木瀬小6年
谷川 あさひ

　アリさんの巣をヒントに、地下を有効活用することを考えました。
環境を人工的に管理し、春夏秋冬の公園や目的別の公園をたくさん造ります。
　移動は、トロッコ列車を使います。もちろん、地上も緑豊かな緑地帯にして手軽に散歩や日光浴ができるようにしました。
　学校で習った、一版多色ずりをしました。彫刻刀で細かいところを表現することが難しかったです。

受賞作品

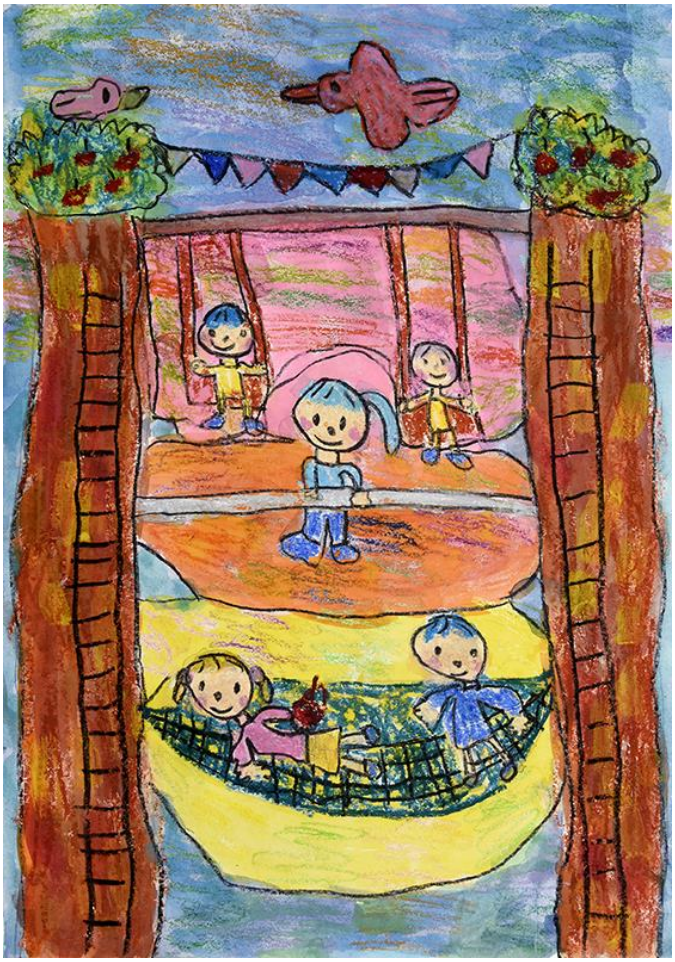
■都市公園法施行60周年等記念賞



「木の公園」
品川区立台場小2年
鈴木 凜翔

木のはっぱの上であそべる公園をかきました。ひみつ基地みたいにわくわくするところが近くあったらなあと思ったからです。小さなはっぱをたくさんかくのが、かたがこって大変でした。

■審査員特別賞



「おっきい木こうえん」
千葉明徳短大附属幼稚園 年長
小泉 詩絵

大きな木、2本の間でいろんな遊びができる公園を描きました。
私のだいすきなぶらんこ、てつぼう、うんてい、木のぼりができるし、つかれたらリンゴをとってハンモックで食べてきゅうけいします。
おねえちゃんやともだちと遊びに行きたいです。

受賞作品

■入選

「アハハ公園」
江東区立明治小3年　砂金 諄

この公園は、学校がいやな人も、おかあさんにおこられた子供も、子供をおこったおかあさんも、つらい病気のおじさんやおばさんも、姉妹兄弟でけんかをした子供たちも、けがをした子供も、みんな笑って楽しい公園です。

「木と水となかよし公園」
さいたま市立太田小4年　清水 さくら

木登りもできて、ツリーハウスでお話したり、ぶらさがったり、すべったりもできる公園です。長いロープで作ったはしごがあって、木から木へ移動できたり、下には水遊びもできる池があってスリル満点。

私が一番遊んでみたいのはブランコです。こんな公園があったら毎日外で遊びたいです。

「死んだ人や動物に会える公園」
佐賀市立高木瀬小3年　谷川 純白

死んだおじいちゃんやひいばあちゃんに会える公園があったらいいと考えました。大きなにじを入り口にしました。いつもは無理だけど、にじが出たときに公園へ行けるようにしました。

ペットや虫、だれでも利用できる公園です。天国をかくのがむずかしかったです。

「未来や過去へ トンネルで」
江東区立枝川小4年　田中 紀羽

いつでも未来や過去に行けるトンネルを表現しました。このようなトンネルがある公園があったらいいなと思ったので、絵を描きました。工夫したところはトンネルの入り口です。

受賞作品

■入選

「くじらパーク1号～いっしょに海へいこう！～」
千葉市立幸町第三小学校5年　服部宗一郎

　ぼくは、千葉に住む前、広島に住んでいました。瀬戸内海で船に乗っていた時に島が海にたくさんういているように見えました。島ごと動いたら気持ちよさそうだなあと思っていたので、くじらの上に家族や友達みんなが楽しめる公園を作りました。

「海と空をつなぐ緑の公園」
さいたま市立上落合小5年　南 朝瑛

　海中と雲とをつなぐ、虹の橋のかかった生命あふれる未来の公園を描きたいなと思いました。
　海面と海底のちがいを表現するのに苦労しました。砂のキラキラ感を出すために、カラフルにしました。工夫したところは、実は山ともつながっていて、緑をはさみ空とつながっているところです。また、１つ１つの生物を細かくかいたところです。

「地下公園」
横浜市立小坪小6年　池田 愛菜

　テーマはどんな天気でも遊べる公園です。描いた理由は雨が降るといつも公園で遊べなくて残念に思っているからです。苦労した点は、地下の公園なのでどうやって明るくしようかと迷って、陽の光を地下まで送る装置を考えました。